

User Report

ユーザーレポート

～0の証明～

廃棄物回収

有限会社吉田組

Gマーク(一般診断)の社内化でコスト削減と高評価を実現。 プロ意識を育てながら「完全事故ゼロ」をめざしています。

有限会社吉田組は、東京都小平市・東大和市の委託を請け一般廃棄物の収集を手がける企業。社員数39名と小規模ながらドライビングシミュレーションをはじめ、数多くの安全対策を講じ効果を上げています。今回はそのきっかけや安全への取り組みを取材しました。

ご利用機器



PC、ステアリング、ペダル、プリンターがセットになった卓上型ドライビングシミュレータ「ACM300」

導入のねらいと効果
小規模ながら導入を決断。
過去最高のGマーク評価を取得



吉田氏：「ACM300」を導入した一番の理由は、Gマーク更新時の適性診断(一般診断)が社内で行える点。導入前は社外の専門機関に社員を行かせて

いましたが、「交通費+診断料+公休扱い(半日)×従業員数」となると、少人数とはいえ負担は軽くありません。当社の規模、業態に合うかどうかなど、東海電子の担当者からも様々なアドバイスをもらい、2015年6月に導入しました。

当社ではシミュレータ導入を機に、一般診断の指導を適正に行うため、NASVAの「適性診断活用講座」も3名の安全運転管理者が受講しました。彼らが業務状況を見ながら、時期を見て該当する社員に適宜呼びかけ、シミュレーション診断を実施。診断票も単に渡すのではなく、良い点は青色、注意点はオレンジのマーカーを使って色分けし、一目で診断結果が分かるようにするなど工夫しています。

この一年を振り返ると、本社と東大和事業所の両拠点とも軽微な車両損傷を含めて事故件数が激減し、特に東大和事業所は、通年でゼロ記録を更新しました。さらに昨年末のGマーク更新では、99点と過去最高の評価をいただき、私たち自身、非常に驚いています。

取材ご協力

有限会社吉田組

代表取締役 吉田 登 様

〒187-0041
東京都小平市美園町1-1-2
TEL 042-341-2932 FAX 042-345-2494



安全対策の2本柱
「抑止力」と「プロとしての自覚」
両面から講じる安全対策

吉田氏：正直な話をする、十数年前、知り合いの会社経営者から「おたくの車は逆ハン切って角を曲がっていく」と指摘されたのが、危機感を深めるきっかけでした。家庭ゴミの収集は、限られた時間の中での業務なので、どうしても気が急かされがちです。しかし、市の委託を請け、町の衛生環境を守ることが仕事なのに、住民の皆さんを不安にさせるような運転が許される



はずがありません。そこで13年ほど前にドライブレコーダーを導入し、7年前にはデジタコも取り付けました。現在、ドライブレコーダーはほとんどの車両が前方、車内、左後方、後方の4カメラで、記録映像を社内外の勉強会に活かしています。また、アルコール検知器も義務化の1年前には導入を完了。これらは自分の運転や業務への姿勢が常に見られているという「抑止力」として作用し、一定の効果も上げてきました。

その一方で当社では、4t車が主流だった時代から大型免許や運行管理者の資格取得も奨励してきました。狙いは「プロとしての自覚」を根付かせること。「資格者が事故を起こしたら恥ずかしい」といった意識が自然と生まれ、今ではドライバーの約半数が運行管理者の資格を取得しています。

幸いなことに、当社は勤続34年の大ベテランをはじめ離職率が極めて低く、「1日たりとも市民サービスを止めてはならない」という強い意識を自治体とも共有しています。現在は一般車用のドライビングシミュレータを使用していますが、先般、中型・大型車用の新機器をデモ体験したところ、より当社の車両に近い運転視野や危険予知ポイントが含まれていることが分かりました。すでに導入を決めていますので、本社だけでなく東大和事業所とも連携し、さらに効果的な活用を図っていきたくと考えています。

吉田組の「安全」を支える2つの柱

ドライブレコーダー	危険運転抑止	プロ意識醸成	大型免許取得
デジタコ			運行管理者資格
アルコール検知器			ドライビングシミュレータ

取材後記 昭和初期から親子3代で廃棄物回収業を営んできた同社。年3回開く全社懇親会だけでなく、日頃も食事に誘うなど、代表者自ら社員と家族のような付き合いを心がけており、こうした点も安全意識の共有や自発的な心がけを育むのに深く役立っていると感じた。

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。